

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入) 平成 21 年度

事業所番号	2774101550		
法人名	なにわ保健生活協同組合		
事業所名	グループホーム びろうじゅおおよど		
所在地	大阪市北区大淀中1丁目6番26号		
自己評価作成日	平成 22年 4月 28日	評価結果市町村受理日	平成 22年 7月 12日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.osaka-fine-kohyo-c.jp/kaigosp/infomationPublic.do?JCD=2774101550&SCD=320
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人大阪府社会福祉協議会 福祉サービス第三者評価センター		
所在地	大阪市中央区中寺1丁目1-54 大阪社会福祉指導センター内		
訪問調査日	平成 22年 5月 19日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

開設より丸4年が経過し、職員の離職もほとんど無くなじみの関係作りが出来て来ている。利用者様の年齢構成の中が大きく認知症の症状もまちまちである。既往症の進行により入院加療が必要となる事があるが認知症の病態により、入院加療が困難な場合も多く、出来る事なら住み慣れた当ホームで、最後まで過ごしたいという意向を受け、看取り指針を軸に家人様やDr.看護師、ケアスタッフとの話し合いを深め医療生協としての信頼に答えられるよう支援を行っている。又認知症の進行により行動障害などが出現した場合には、その方にあった認知症専門機関を受診して戴き、その方の生き易さを家人様も含めて摸索し日々のケアに活かしている。ボランティアの活動も活発でありコンサートや落語会などの行事を行ったり、日々のお散歩やお話し相手などに来て頂いたりしている屋上庭園は草花や野菜などが季節毎に植えられており、利用者様や職員を和ませてくれている。中学生の職場体験実習受け入れを行っており少しづつ地域との繋がりを築いている

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

3駅からの徒歩圏にある市街地に立地し、1階には認知症デイサービス、居宅介護支援、訪問介護、配食センターがあり、2、3階がグループホームとなっています。四季折々に楽しめる屋上庭園があり、和風庭園、菜園、花壇などがボランティアの活躍できれいに生育、整備され、散歩や日光浴、洗濯干しに利用されています。また、今年はスプリンクラーの設置やトイレの改修を行い、利用者の安全、安心な暮らしにつなげています。家族には毎月の報告に担当者のコメントを追加し、信頼関係を得ています。重度化、高齢化に伴い看取りの指針も作成され、より細やかな対応に努めています。都心の郊外大淀の街並みにとけ込んだ「もう一つの我が家」を目指し、管理者、職員共に取り組んでいます。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	各ユニット毎に掲示し、フロアー会議などでの読み合わせを行い理念を共有し、困難ケースなどの対応に困った時などには立ち返るようにしている	法人の取り組みについては、『私たちは安心と信頼で地域と密着した医療・保健・介護・福祉の総合保健グループです』とパンフレットに明記し、事業所理念として『(要旨)認知症と介護サービスについて専門的な知識と技術を持つ職員が利用者一人ひとりの状況と希望に合わせたサービスを提供していきます。個々を大切にし、家庭的な雰囲気の中でなじみある人間関係を形成し、さりげなくかつ温かいサポートにより、毎日が実りある生活になるよう支援します。個々の生活歴を大切にし、個々に適した取り組みを提案し、残された機能の能力低下防止に努めます。』を各ユニットに掲示し、管理者と職員は実践に努めています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	日常的には交流出来ていない。 夏祭りや敬老の日などの行事においては交流出来ている	ホームは、市の中心部に程近い立地にありますが、比較的静かな環境となっています。周辺は大きなオフィスビル等が多く、一般住民との交流が難しい状況にありますが、町会に加入し、回覧板が届いています。町会長の協力により、町の敬老会等の行事に利用者が参加しています。地元の中学生の体験学習も受け入れ、地域との交流に努めています。管理者は、夜間の避難訓練等で地域との有効的な連携をしたいと考えています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を地域の人々に向けて活かしている	不十分である		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	実施できていない	この1年間は、事業所の都合で運営推進会議の開催ができていない状況です。地域包括支援センター職員のアドバイスもあり、5月末には本年度の運営推進会議の開催を予定しています。	今後は、年6回、概ね2ヶ月に1回会議を開催することが求められます。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	不十分である	区の地域包括支援センターとは情報の交換や相談をしています。また、外部評価結果の報告をしています。大きな事故発生があれば報告しています。区の担当課には、ケアマネジャーが訪問し、介護保険更新の手続き等も実施しています。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束に関する項目に付いては、利用者との契約時に説明を行っており、又職員には個人カンファなどの機会を利用して理解を深めている 唯、玄関の施錠解除に関しては、実施出来ていない	身体拘束をしないケアについて、事業所の理念、方針を文章で明確にしています。マニュアルも整備され、職員には機会あるごとに理解を深めるようにしています。各フロアの入口のドアは、テンキーロックがかけられており、開けるためには手動操作が必要な状況です。操作可能な利用者は、自由に開錠することもできます。外出希望者には職員が付き添って、一緒に外出しています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待に関するリーフレットなどを活用し学ぶ機会を確保している 言葉による虐待をも含め日頃のケアの見直しを行っている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見人制度の必要なケースもあり 家人より相談に応じたり、又入所時に必要と思われるケースに関してはホーム側から資料を提示し検討頂くようにしている		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には十分な時間をとり説明を行い不安や疑問点に付いて納得を得ている		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	定期的な家族会の開催や面会時など機会あるごとにご意見を頂くようにしている	家族の来訪時にできる限り意見を聞くようにしているほか、家族会を開催し意見、要望を聞く機会を作っています。ここ1年は4回の家族会を開催しました。家族の要望で、1カ月に1回、手紙で利用者の様子や事業所の様子を伝える新しい試みを始めています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回のフロー会議や2ヶ月に1回の合同会議、又職員面談の機会などを捉えて意見や情報を聞き運営に反映させている	定期的な会議を開催して、自由な意見を出し合い、業務の改善に繋がる取り組みができています。職員は管理者が定めた書式で、毎月業務の達成状況や課題についての取り組み、意見等を報告しています。管理者は、職員と個別面談の機会を作って意見交換や相談に応じています。ケアの見直し、利用者の物品補充、設備改善等サービスの向上にも繋げています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員面談の機会を設け、又個人評価制度により正しく職員の業務を評価し管理者の一方的な評価にならないように配慮している各職員の役割を明確化しやりがい作りへ繋げている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修情報の開示や必要な研修についてはホームより行くように指導している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	医療生協としての横のつながりにより他法人との交流を行っている		
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所以前の見学の段階やご本人面談時には十分に時間をとり関係作りを行っている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所以前の見学の段階でご家族の困っておられる事、入所に当たって不安に思っておられる事を充分にお話頂く時間を作っており関係づくりに努めている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	時には併設のデイサービスや配食サービスの情報をお伝えし、段階を踏んでサービス導入へ繋げるように努めている		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日常生活の些細な事からその方の人となりを汲み取り職員も一人の個として対峙する事によりお互いに共鳴する事が出来るように努めている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	各利用者の担当者を決めており、面会時など家族様との関係作りの中から家族との絆の大切さを伝えるように働きかけそうした関係作りが出来るように支援している		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会時など機会を捉えご本人との写真を残したりしてご本人の記憶に残っている人間関係を途切れさせないように配慮しているが、まだ不十分である	各ユニットとも以前からの友人、知人の面会があります。また、友人と商店街やホーム周辺地域へ一緒に出かけたりしています。年賀状、暑中見舞状の宛名書き等、職員が支援することもあります。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	普段の会話の中で職員が間に入る事により関係作りを行っているが時にはお互いの気持ちを話し合うことによってお互いに共鳴しあう事はあるが不十分である		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了時は入院又はご逝去されている事が多く、そこまで支援できていないのが現状である		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	自分の意思の表出できない利用者の意向をいかに汲み取るかに苦慮している。職員の一方的な思いを押し付けることなく複数の職員が意見を出し合い支援するようにしている	一人ひとりの生活歴や今後望む暮らし、思いを把握し、家族から情報を得てアセスメントに記入し、職員はそれに沿った支援をしています。甘いものが嫌いな方にはおやつ工夫をしたり、花が好きな方に名前を覚えてもらったりと、職員の思いだけでなく、みんなで好みを共有して支援しています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所前に家族様やケアマネからの情報提供や日々の本人の断片的な言動を拾う事により把握するように努めている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	出来るだけ個別にかかわる事により把握するようにしている		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	個別カンファレンスを行い、それを家族様と共有する事により介護計画に反映出来るようにしている	介護計画書は計画的に実施し、状態の変化のある時はその都度見直しています。計画作成担当者は、毎月のカンファレンスの話し合いに参加して反映しています。その都度、家族との話し合いの機会を持ち、訪問された際にはきちんと説明しています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護日誌や日々の管理日誌、日々の申し送りなどにより見直しに活かしている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	例えば食事形態など本人の状態や家族様の希望を取り入れ柔軟に対応するように努めている		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人は心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	不十分である ホームから外部への発信出来ない		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30	11	<p>○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>当ホームの母体は医療生協である為入所時依存が無ければ法人内クリニックの往診医を主治医としているが希望があればご自身でかかりつけ医を選ぶ事は可能であり、又必要に応じて情報提供を行い支援している</p>	<p>母体の保健生協の主治医による週1回の往診の他に、近隣のかかりつけ医が往診に来院し、また歯科医については予約をすれば往診が可能です。緊急時の対応については同系列の訪問看護ステーションの看護師長から指示を仰ぎ、必要な場合は医師の往診があります。医師の往診の際、担当職員を決めて、医師の支持が全職員に伝わるよう工夫しています。今年に入って看取りの経験があります。</p>	
31		<p>○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している</p>	<p>24時間オンコールにて看護師に随時情報提供を行い指示を受けられるようにしている</p>		
32		<p>○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている</p>	<p>利用者の定期受診には随時職員も同行し情報を提供するようにしている</p>		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	12	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>看取り指針を軸に家族様との話し合いを十分に持ち、必要があればDrや看護師、職員も交えて検討するようにしている</p>	<p>看取りの指針を作成しています。利用者が重度化した場合には、「終の住処」として希望された方に対して看取りの介護を行っています。本人、医療、家族、介護者の連携体制が整っている場合には、住み慣れたホームで受け入れて尊厳あるターミナルを目指しています。全職員が共通認識を持ち、一定の研修も実施しています。この1年、事業所で見取りの経験をしています。</p>	
34		<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている</p>	<p>不十分である</p>		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災訓練は2回/年行っているが不十分である	災害マニュアルを作成しており、年2回避難訓練を行っています。また、消防署の指導により訓練も実施しています。現在非常階段の利用について車椅子の方はどうするか不安な点もありますが、ホーム内にスプリンクラーが設置され安心感につながっています。今後は運営推進会議を通じて地域の方たちにも協力が得られるよう検討しています。非常災害時用の備蓄については水、食料を用意していますが、備蓄量が少ない状況です。	非常災害時用の備蓄については、3日分を目安に準備することが望まれます。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	事業所理念や職員が目指す指針を掲げ、不適切なケアを目にした時は指導するようにしている	入居契約時に個人情報保護について、家族から記名捺印を得ています。日常から利用者の誇りやプライバシーに注意を払い、各人に合わせた言葉使いを心がけています。職員が目指す10か条を掲げ、日々取り組んでいます。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の思いはじっくり時間をかけて傾聴するようしており、又こちらからの一方的な指示ではなく出来るだけ自己選択できるような問いかけを行っている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	不十分である 職員の業務優先という事は無くなって来ているが、希望にそった支援に付いては、充分ではない		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	例えば起床時など季節に合わせた衣類を示し、時には本人が選択出来る様な問いかけを行い、今までの生活習慣が継続出来る様に支援している		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	当ホームは平日の昼食、夕食に関しては配食サービスを利用している為、間食や日曜日の食事に関して利用者の意向を聞きながら調理をしたりしている。行事食など楽しみにしている。片付けは一部の利用者のみが行っている	昼、夕食については併設の配食サービスよりでき立てが届きます。また、お味噌汁は屋上で採れたての野菜を使いホームで調理することもあります。朝食と日曜日については利用者の好みを聞いて調理し、食材は近隣のスーパーより配達してもらっています。昼食はカレーライス、バラ寿司、焼きうどん、丼物の要望が多く、また、夕食はにぎり寿司や天ぷら、フライを好まれて楽しみにされています。また、特別な行事食なども楽しみにされています。職員も一日一回は利用者と同じ食事を頂いています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	管理栄養士の献立により大まかなカロリーを把握しており、必要があれば栄養士と相談しながら対応している		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	ほぼ出来ている 強い拒否のある利用者に対しては不十分である		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄パターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表の活用により排泄パターンを把握し出来るだけトイレでの排泄を促し、自立可能な利用者に対しては、促しや見守りを行っている	排泄チェック表を作成しています。昼間に紙オムツを使用している方はなく、夜間のみオムツを使用している利用者がいます。利用者がトイレに入られた時は職員も気をつけていますが、排泄排便の汚れや後始末等もあって、鈴を付けて開閉時に教えてもらえる様に工夫しています。便座に長く座れない方については、稼働テーブルを設置してもらったり、立ち上がりに使用したりする等、重宝されています。今年の改装時にウォシュレットも設置しました。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便状況を把握し対応している。特に水分量や食事量、運動などに工夫出来るだけ自然排便を促すようにしている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	希望や体調なども配慮している。概して入浴を億劫がる事が多く時には入浴剤を使ったりして 気持ちよく入浴できる工夫をしている。唯夜間などの入浴の希望に付いては充分に対応出来ていない	入浴を億劫がる傾向があり、入浴を促すために工夫を重ねています。入浴剤をはじめ、菖蒲湯、ゆず湯や屋上で育てたバラの花びらを浮かべる等の他、更衣室で音楽をかけることも試みて効果をあげています。平均して週2～3回の入浴ペースとなっていますが、夏場は入浴機会を多くしています。夜間の入浴は、実現できていません。	今後は週3回以上の入浴や、また希望があれば夜間の入浴についても可能となるよう検討することが望まれます。
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	午後からの仮眠など利用者の体調などに配慮して対応している 認知症の進行による睡眠リズムの乱れを把握し本人の睡眠リズムに合わせる様にしている 夜間などは落ち着いて眠れるよう環境作りにも配慮している		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	最新の服薬情報をファルシ回覧する事により服薬支援と観察に努めている		
48		○役割、楽しみごとの支援 入所時の情報収集や日々の細かな情報張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入所時の情報収集や日々の細かな情報を基に対応している。嗜好品に付いては夜間の晩酌も含めDrと相談しながら支援している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	その日の希望に沿ってとまではいかないが出来るだけ行事などの機会を捉えて、出かけられる機会を提供するようになっているがまだ不十分である	利用者の希望に添って外出を支援しています。ホームの近くには空中庭園がある緑に恵まれた大きな公園があります。ホーム建物の屋上には手入れの行き届いた菜園や花壇があり、雨よけ屋根のついたベンチも備えられています。気分転換に、ホームの屋上庭園へ上がり、外の空気を吸って楽しんでもらいます。お正月や法事の際に自宅へ帰られることもあります。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金は高齢者にとっては、生きていく為の拠り所であり、こだわりも強い実際に使う場面は少ないが生活していく為の道具として意識できるよう支援している		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本院自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している	電話をかけた受けたりは出来る、暑中見舞や年賀状など促してみることが、手紙を書く事は出来ない		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
52	19	○居心地のよい共有空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	日々過ごしやすく清潔に過ごせるよう配慮している	共有の空間はバリアフリーとなっています。また、利用者の使いやすいトイレの工夫や浴室の改装、スプリンクラーを取り付ける等、快適に暮らせるよう努めています。食事の時には穏やかな音楽を流す等の工夫をしています。フロアにはドッグセラピーで訪問したセラピー犬との写真や、季節の花が生けられています。図書コーナーやソファを配置するなど、くつろげる場所も確保しています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	図書コーナーやソファを置くなど工夫をしている		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入所時には家族様に伝え、ご本人の馴染のものを持参いただくようにしている	居室には洗面所、クローゼットが設けられ、入り口のドアも引き戸となっています。洋室、和室と利用者の状態に応じて利用しています。居室には自宅で使っていたテーブルや椅子、飾り棚、テレビ等があり、家族の写真を飾ったり、制作した作品を飾ったりしている方もあり、自分の居室でくつろがれています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
55		<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>トイレの場所や居室に名前をはるなど工夫をしている</p>		